

2009年3月吉日
 株式会社ヤマダ電機

弊社 2013 年満期・2015 年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債 (日本企業初導入の「リキャップCB」) がトムソン・ロイター「DealWatch Awards2007」において 「EQUITY-LINKED BOND OF THE YEAR」受賞!

トムソン・ロイター「DealWatch Awards 2007」において、2008年に弊社が日本企業として初めて導入した、CBでの調達資金を自己株式の購入に充てる「リキャップCB(5年債・7年債)」が、「株絡み債部門」で「EQUITY-LINKED BOND OF THE YEAR」を受賞しました。内容は以下の通りです。

EQUITY-LINKED BOND OF THE YEAR



最小限の希薄化で最大限に配慮

2007年度はサブプライムローン問題によりマーケットが混乱を極め、資本市場やクレジット市場は先行き不透明感から不安定な動きを繰り返した。本邦株絡み債市場では新規発行が昨年度比で半減する1年となった。このような厳しい環境下において、2本立てユーロ円CBで1500億円を調達する一方、調達資金の700億円で自己株式取得を実施するというリキャップCBを日本国内企業として初めて発行したヤマダ電機が、今年度のEquity-linked Bond of the Yearを受賞した。既存株主や翌日の株価インパクトを最大限に配慮したスキームで市場から高い評価を受けた。

● 5年債

発行額：700億円(含グリーンシュール100億円)

表面利率0.0%、発行価額100.50、募集価格103、アップ率50%、転換価格1万4175円

仮条件：転換プレミアム40~50% ブックランナー：野村インターナショナル

● 7年債

発行額：800億円(含グリーンシュール100億円)

表面利率0.0%、発行価額100、募集価格102.5、アップ率46%、転換価格1万3797円

仮条件：転換プレミアム36~46% ブックランナー：野村インターナショナル

家電量販店最大手であるヤマダ電機は、2005年に連結売上高1兆円を達成し、その強固な財務体質を強みに積極出店をしてきた。2007年度の経営スローガンを「販売目標で連結2兆円以上ステージへ基盤、構築スタートの年」とし、連結経常利益1000億円を目標に掲げている。都市型大型店舗L A B Iの出店と並行して、地域密着型家電専門店のぷれっそホールディングスとキムラヤセレクトを子会社化しており、着実にその目標は実現への道を歩んでいる。今後の事業拡大に備えた設備投資資金の確保と資本効率の向上を検討するなかで、ヤマダ電機は負債性の高い資金調達と自己株式取得というスキームを選択した。

同債はクレジット市場が急激に悪化する2008年2月末に登場した。しかし「内需関連の大型株のなかでも数少ない成長企業」(外資系アナリスト)であり、「セクターの希少性」(スイスCBファンド)「信用力の高さ」(ロンドンCBファンド)「高水準にあるボラティリティ」(欧州CBファンド)など高い関心を集めた。

決議翌日の寄付前にToSTNeT-3により約230億円分の自己株式を取得。これにより投資家のヘッジ圧力を吸収し、希薄化懸念を和らげることに成功した。同株式は金庫株として保有され、今後CBやストックオプションの転換、株式交換に利用されるか、消却される形となる。これからも市場環境を見ながら自社株買いを継続していくという。翌日の株価は上昇してTOPIXをアウトパフォームし、最終的には「発行体と投資家双方が満足した“win-win”案件」(複数ECM)と評された。

※出所：Thomson Reuters(トムソン・ロイター) 同社提供のサービスDealWatchより弊社転記
 同記事の著作権はトムソン・ロイターに帰属しています。問合せ先03-6441-1119